

小別沢新聞

9月

2022年(令和4年)

第13号

発行：札幌市農政部
(TEL 211-2406)
編集：株式会社ダズリング
(TEL 615-7000)

郵送による定期購読を希望される方は、札幌市農政部までご連絡ください。

小別茶話会の報告

第7回 2022年7月12日開催

7月12日に通算7回目の小別茶話会が小別沢会館で行われました。今回の参加者は6名(町内会員(特別会員含む)5名、その他1名)でした。



《これまでの振り返り》
初めに、「里山活性化推進事業」の概要と「森林整備」についておさらいし、進捗状況や今後のスケジュール等を共有しました。市からは、「今後、行っていく事業の方向性や取組のキーワードをまとめた資料を1枚作りたい」との話がありました。

続いて、これまでの小別茶話会を振り返り、「小別沢を他地域にPRはしたいが、たくさん観光客を呼

び込むのではなく、キャッチしてほしい人に訪れてもらいたい」「次世代を巻き込んで何か取組めないか」といった要望や、「炭焼きイベントや市民参加型の薪作りの場を作れないか」など出された意見を共有しました。

《意見交換》

意見交換では、札幌市円山動物園との協働について「小別沢で出た枝葉をゾウの餌として園に提供し、園からはゾウの糞から作った堆肥を提供してもらい、野菜作りに活かしていく。動物園の中でもその野菜を販売するのも良いかも」「ゾウが食べ残した木材で炭を作れないか」等の意見や、「割箸を持ち寄って炭焼きしながらバーベキューを楽しんで」「新月伐採(※1)を実施して子ども達に見せたり、そのストーリーを絵本にしては」など、

自然との共生や、他ではできない小別沢ならではの付加価値の向上を意識した意見とともに、「中間支援組織(※2)は一つじゃなくても良い」「市も農政だけでなく色々な部局と連携していく」といった、取組み方に関わる意見も出されました。

また、市から、地域の取組を支援していく制度の創設を検討していることについて話があったほか、中間支援組織を対象に補助を行う「札幌市文化芸術創造活動支援事業」の仕組みが里山事業にとっても参考になること等について意見が交わされました。その他の意見は別紙「第7回小別茶話会における主な話題」をご覧ください。

※1 樹木の中に栄養水が少なくと言われる冬の新月の日に伐採すること。これにより、耐久性が高い良質な木材となるとされている(諸説あり)。
※2 行政と地域の間立つて様々な活動を支援する組織。

9月20日(火) 同日に開催します

14:30
~15:30

森づくりの説明会

場 所： 森林整備実施箇所

主 催： outwoods

協 力： (株)やまのかいしゃ、札幌市農政部

申 込： 090-3893-3115 (野中)

minori.nonaka.meru0501@gmail.com

*参加を希望される方はお問合せください*集合場所未定(参加決定後、連絡)

16:00
~17:30

第8回小別茶話会

場 所： 小別沢会館(札幌市西区小別沢49)

内 容： 取組の体制づくり

*町内会以外の方で初めて参加を希望される方は準備の都合上、事前に下記担当者までご連絡ください。

*新型コロナウイルス感染状況によって中止となる場合があります。その際は改めてご連絡致します。

☎211-2406(札幌市農政部農政課 内野・石堂)

森林整備が 始まりました

《森林作業道づくり》

足立成亮さん

(outwoods) による環境保全型林業が始まり、7月中旬から8月上旬にかけて森林作業道がつくられました。森林作業道は来年度から始まる間伐作業の時に使う道で、ここを通って重機が移動したり木材が搬出されることになりません。道幅は小型トラックが通れる程度で、木の間を縫って蛇行していることが大きな特徴です。これはなるべく森にダメージを与えず、また、景観が変わらないよう、



伐る木を最小限に抑えているためです。また、伐った木の切り株は、法肩に積んで土留めとして活用するなど、基本的に現場にある自然物だけで道がつくられているので、森に溶け込むような心地よい景色が印象的です。今年はまだ木材がほとんど出てきませんが、「薪」や「ゾウの餌」(詳細は後述)など、小別沢産の木が販売・活用され、地域の新たな魅力になっていくことが期待されます。

9月20日には森づくりの説明会も開催されますので、興味がある方はぜひご参加ください(申込方法などの詳細は1面を参照)。

※関係者以外の車両侵入を防止するため、森林作業道の入口には札幌市でゲートを設置しました。

《森とどうぶつえん》

7月23日、森林整備の一環でNPOあおいとりの札幌市円山動物園の共同開催により、「森とどうぶつえん」というイベントが行われました。親子連れなど12組が参加の元、小別沢の森や畑、円山動物園をフィールドとして「小さな循環」を学び、体験しました。

午前中はみんなで小別沢の森に入り、間伐作業を体験。木こりの足立成亮さん(ninowoods)から環境に優しい森づくりの話聞いた後、ゾウの餌となる枝葉を集めました。子ども達の顔は真剣そのもので、2台あったトラックがあつという間に一杯になりました。

午後は円山動物園に移動し、採ってきた枝葉を子ども達がゾウ舎に設置しました。森のようになつた空間にゾウが登場すると、子ども達からは歓声



が！鼻を使って枝葉を器用に食べる様子に、大人も子どもも思わず夢中。飼育員さんから、ここにいるアジアゾウ達が、元々はミャンマーの森の中で生活し、枝葉を食べていたこと等が紹介されました。街では入手しづらい新鮮な枝葉をゾウに届けることがとても大切だと分かり、ちよつと誇らしげな子ども達でした。

その後、園内にあるゾウの糞の堆肥化施設を見学しました。高温で発酵処理され、匂いが気にならなくなった糞(堆肥)にみんな興味津々。堆肥をトラックに乗せ、小別

沢の畑に持ち帰ったところで、NPOあおいとりの永田さんから畑と堆肥の関係についてお話を聞きました。廃棄されてしまうことが多い糞も、堆肥にして畑の土に混ぜれば美味しい野菜を作ることができる大切な資源だと聞き、私達の生活が円山動物園や森とつながった瞬間でした。

森(里山)と円山動物園(街)のつながりや、資源の循環を親子で学べる盛りだくさんのプログラムでしたが、子ども達が最後まで元氣いっぱいに参加している様子が印象的でした。



(写真左から) 藤田進さん、首藤康子さん、佐々木信さん



小別沢のあのヒト

(株)庭
藤田進さん
佐々木信さん

——小別沢で農業を始め
たきっかけは？

【佐】本業は3KGという会社でグラフィックデザインの仕事をしているのですが、都会生活がちよつと違うなと思っていた時、アジアを訪れて惹かれる

ものがありました。庭には鶏がいて、街にはスターバックスコーヒーがあった。そんな時、藤田君やNPOあおいとりの永田さんが近くにいて、小別沢という環境に気がついて、ここなら同じような生活ができるかもと思いました。藤田君とは別の会社ですが、一緒に仕事をすることも多かった。なので、共同の会社として(株)庭を設立し、農地を借りることにしました。

【藤】私も本業

は別で、札幌第一こどものとも社という、絵本やおもちゃを販売する会社を経営しています。大学で国際開発を学びましたが、開発する側、開発される側、上下関係が生じる現状のやり方に疑問を感じ、日本で小さくても良いから自立的に発展していく方法を取り入れたく、関東の農場

で有機栽培や畜産といった自給的な生活を経験しました。ライフステージの変化で札幌に戻ることになりましたが、その時の暮らしが抜けきらず、ずっと小別沢付近で畑を耕していました。今は手に余るほど広い規模ですね。

——本業と農業との兼ね合いは？

【佐】昨年、拠点が2箇所に分かれていると本業と農業との両立が難しかったので、納屋を整理してデザインの仕事もできるようにし、今年是小別沢にすることが多いです。小まめに来て、少しずつその日できる農作業をしている、という感じですね。街のオフィスよりもここは気持ちに余裕が出るので、デザインのアイデアが出やすいメリットも感じています。

【藤】いつも作業が追いついていませんが、タイミングを見極めて朝一や土日などに一気に取り掛かるようにしています。

——今、栽培している作物は？

【藤】全体の半分ほどの面積で小麦とライ麦を育てているほか、玉ねぎ、じゃがいも、大豆などを作っています。

——今後の農地としての目標は？

【藤】土地に合ったものを無理せず作れるといいなあと、色々と実験的に栽培しています。育つはずなのに育ちにくいものと、よく育つものがありますよ。

——最後に、小別沢が将来どのようなようになって欲しいですか？

【佐】都会の中のポツンと田舎、が保たれたら良いと思います。ここ以外にも、都会と郊外の生活を両立できる場所が身近にもっと増えたら良いですね。

【藤】大きく変化していく、というよりも、今のそれぞれの活動状況が見えて、面白い地域だともっとよくなるようにないと良い気がします。地域全体で取り組んで行くこと、個々で取り組んで行くことが少しずつ重なっていくと楽しそうです。

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

里山事業の
スケジュール

小別沢新聞	第12号	第13号 (この号)	第14号	第15号	第16号
小別茶話会	第7回 7月12日(火)	第8回 9月20日(火)	第9回	第10回	
森林整備 森林経営管理法		森林作業道 づくり			

これまでの小別沢新聞は下記サイトで公開しています。

札幌 里山  で検索！

<https://www.city.sapporo.jp/nogyo/satoyama.html>

